

資産運用レポート：長期投資のタイミング

1. はじめに

個人投資家として、退職後に備えた長期投資を行う場合、欧米ではインデックスファンドの積立投資が推奨されています。

ドルコスト平均法により、株価の安いときに多く買い付けることができるからです。ただ、長期投資だからといって、何も考えずに買い続けるのはリスクです。

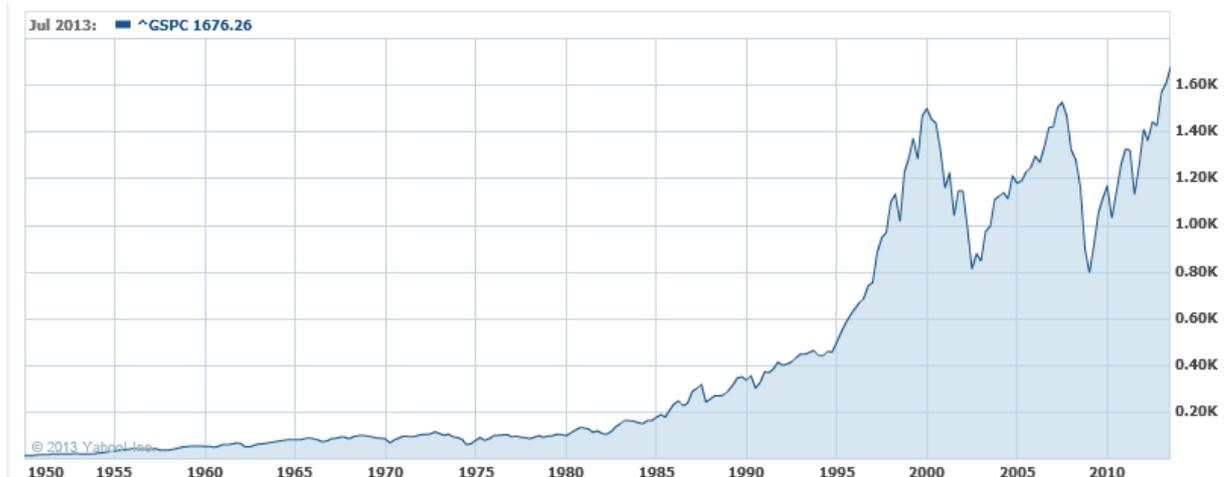
現に、株式市場がバブル状態だった 2000 年や 2006 年に積立投資をはじめれば、その後 2～3 年は雪だるま式に増える含み損に苦しんだことになります。

我慢して積立を続けておれば、何とかなっただかもしれませんが、大底にて投げ出してしまえば（あるいは家族からストップがかかれば）最悪の結果を招きます。

ドルコスト平均法といえども、できるのであれば、株価の安いときに積立を始めたり、追加投資を行いたいものです。そのうえ、株式市場が高騰したときに、積立を休んだり、部分的に利益確定ができれば理想的でしょう。

今回の資産運用レポートでは、長期投資のタイミングについて考えてみました。

★米国 S & P 500 指数のロングチャート



米国のように、中長期的に株式市場が右肩上がりであり、適度なインフレ率が保たれ、資本主義国家として健全な運営がなされている国では、インデックスファンドの積立で資産を築くことができます。